

MATH やらまいかジャーナル

TOP GUN Education System

A Journal of MATH yaramaika

令和6年度（2024年度）12月開催

「MATH やらまいか第12回決勝大会」

活動レポート

トップガン教育システム協議会が主催する「MATH やらまいか第12回決勝大会」は、令和6年12月14日（土）13時00分～の日程で、浜松科学館みらい～ら1階ホールにて開催されました。

「MATH やらまいか」とは、トップガン教育システム協議会事業のひとつであり、小学1年生から6年生の児童が「算数」のゲームを通してよく見る力・よく聞く力・よく考える力（着眼・推理・分析・思考力）を養いながら、速さと思考力を競う大会です。

算数や数学の面白さ・重要さは「考えること」にあります。小学校で通常行われている授業やテストでは、思考の過程に関わらず、答えが合っていなければ「算数が出来ない」ということになってしまいます。「MATH やらまいか」では、ゲームを通して「問題についてとことん考える」機会を与えることによって、算数の本当の面白さを児童に伝えることを目的としています。

また、大会を通して発掘された優れた算数・数学の才能を持つ児童に対しては、優れた才能をさらに伸ばし、将来的に数学オリンピックに挑戦すること等を視野に入れた、長期的な指導も行っております。

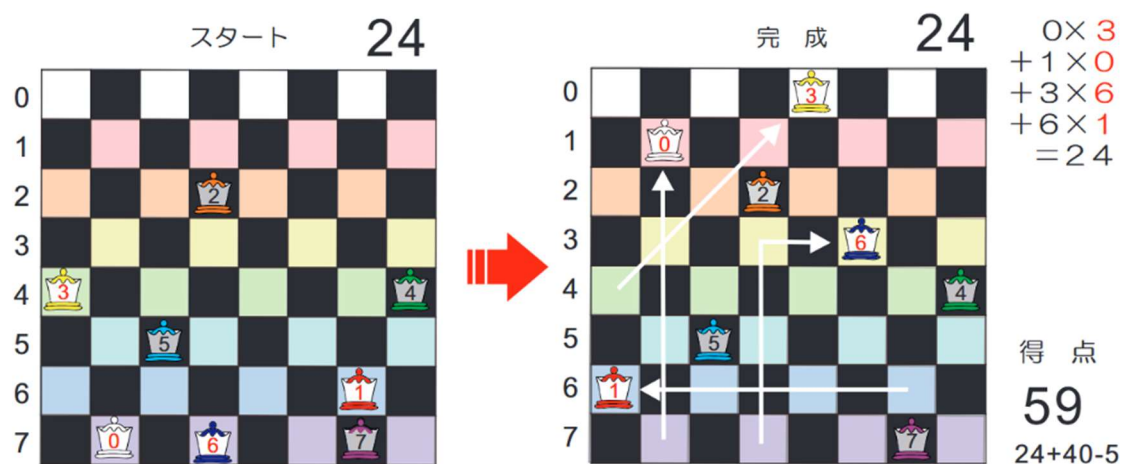
○予選大会について○

後援いただいている地域の全小学校へチラシを配布し第12回大会を周知しました。予選大会には全229名の参加があり、周知した以外にも兵庫県、石川県からの参加も見られました。

予選大会では「8人の女王」という題で、チェス盤上で8人の女王を取られない位置に動かし、かつ女王の数字と盤の列の数字の掛け算の和が、与えられた数字になるように並べ替えるゲームを行いました。最高得点は2,177点。予選期間を経過した現



在もホームページ (<https://math-yaramaika.com/>) 上にて予選問題を公開しており、いつでも・誰でも挑戦可能です。



<

決勝大会

決勝大会への出場者 30 名の地域の内訳は、浜松市 26 名、磐田市 1 名、御前崎市 1 名でした。

開会式では、トップガン教育システム協議会 会長 木村雅和先生から、恒例の激励の挨拶がありました。



トップガン教育システム協議会 会長 木村雅和先生より恒例の激励挨拶

当日は、市長による主賓祝辞に続いて、浜松市長が名誉団長を務めます「ジュニアオーケストラ浜松」からヴァイオリン奏者2名にお越しいただき、葉加瀬太郎作曲「情熱大陸」を演奏いただきました。



浜松市 中野祐介 市長による主賓挨拶 ジュニアオーケストラ浜松による演奏

音楽演奏が終わると、いよいよ決勝問題に取り組みます。問題は全部で12問。難しい問題を、ヒントを使わずに、早く解くことができれば高得点となります。参加者の皆さんは タブレット端末に向かって、1時間、競技に取り組むこととなります。会場では、全員の得点と順位がリアルタイムで映し出され、後ろで見守る保護者の皆さんもドキドキしながら応援します。

決勝問題は「ドーナツ好きの6人の女王」という題で、予選問題のチェス盤をドーナツ型にし、平面での盤の端が反対側につながっている立体的な盤上で、6人の女王を互いに取られない位置に動かし、女王の数字と盤の列の数字の掛け算の和が、与えられた数字になるように並べ替えるゲームでした。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 もどる

21点 21点 21点 21点 21点 21点 21点 21点 21点 21点 21点 21点

すうじ くら じょう うこ じょう じょう じょう じょう じょう じょう じょう じょう

数字の黒い女王: 動かない 数字の赤い女王: 動く

ひだりはん 右半分

ひだりはん 左半分

① ②

③ ④ ⑤ ⑥

⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫

⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱

⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔

㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚

㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱

㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷

㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽

㊾ ㊿

マス得点

0 1 2 3 4 5 6

0 1 2 3 4 5 6

現在の得点 35

残り時間 52:45

ターゲット数 21

ヒント 15

でんすう 点数 21

いどうかいすう 移動回数 0

ヒント

かんせい



競技課題に取り組む児童



競技課題に取り組む児童



かつて参加したOB(中学生、大学生)も問題に取り組みました。



大人(来賓、運営スタッフ)も問題に取り組みました。

大会の結果

優勝	浜松市立佐藤小学校	6年	小嶋 零音 さん (写真中央)
第2位	浜松市立赤佐小学校	5年	横山 武 さん (写真左)
第3位	浜松市立広沢小学校	6年	益子 光也 さん (写真右)



入賞者には、木村雅和先生から、メダルと表彰状が授与されました。

静岡大学 塩尻先生のお話

皆さんお疲れ様でした。私も相当疲れました。

静岡大学の塩尻です。普段使わない脳を一部使って頑張りました。ただ皆さんに比べて全然頭が固くなってしまっていて、予想通り結果は散々なものでした。全問解けないのは当たり前で、4問だけ解けて100点ちょっとという情けない結果でした。そういう意味でも本当に皆さん素晴らしいなと思います。

まずは今日表彰された3人の方、本当におめでとうございます。素晴らしい能力をお持ちですし、また出場していただいているみんなも本当に素晴らしいです。とても大人は立ち打ちできません。むしろ自信を持って、MATH 数学の世界に楽しく元気に今後も頑張っていってほしいなと思っています。

最近新聞で見たんですけど、最近日本人の数学の力というか、数を扱う能力というのは年代にして調べたものがありまして、24歳で頭打ちで、その後落ちていってるという話でした。私はもう60歳を越えていますから、相当に下の下にいっているのでしょうけど、今日は少し頭の一部を使いましたので、ちょっと活性化されたかなと思っています。

なにとはともあれ、本当に皆さんの素晴らしさを感じました。今後はぜひその力を伸ばして行ってほしい、まだまだみんな伸びます。上には上があるわけですので、そういったところを目指してほしいなと思いました。

あと今日は決勝大会ということで問題を解いたわけですが、身の回りには数学で説明できるようなものがいっぱいあるんですね。ぜひいろんなところに目を向けて、皆さんの数を扱う、あるいは数を処理する、といった数学の世界が身の回りにどんなものがあるのか、ぜひ目を配って、数学 MATH の世界を楽しく元気に探究して行ってほしいなと思います。

私自身そういったみんなの力の素晴らしさを実感して、本当に将来に関してワクワクしております。本当に期待しております。

またこの素晴らしい大会を開催いただきました関係の方々に感謝申し上げますとともに、実際のこの大会、

今回12回目とずっと続いて発展してきていますので、ぜひまたこの大会に参加いただいたみんながもっともっと成長してくれるように祈念して私からのお話にさせていただきます。ありがとうございました。



静岡大学 理事・副学長 塩尻 信義 先生

総 評

皆さんどうも本当にお疲れ様でした。浜松医科大学の中村です。

まず、3名の賞をもらった方だけではなくて、229名を勝ち抜いてきた30名の皆さん、本当にすごいなと思いながら見てました。本当にここに来ているだけで素晴らしいと思います。おめでとうございます。



私も、多分お父さん、お母さんも、今日は手に汗かきながら子どもさん応援されてたんじゃないかなと思います。私も問題を解いてましたので、額に汗かきながらやっていたけれども、今回初めて参加させてもらって、一応7問目まで行って8問目を頑張ってたんですけど、ダメだったんです。だから、皆さんを見ていてすごいなって、なんでこんな頭柔らかいんだと思いながら見ていました。

私は今大学病院というところで働いていて、研究とか学会発表とかもやってるんですけど、結構頭は使ってるつもりでいたんですけど、今日1時間やっていると、本当は全然頭使っていないことがわかりました。小学校の皆さん負けるものかと思っていたんですけど、全然かなわずでしたね。皆さんすごい頭使ってるなと本当に感心しました。

この会を企画してくださった皆様にもお礼申し上げます。今日本当に思ったことは、こんな素晴らしい子どもさんたちが日本をこれからさらに元気にしていくんだなということで、日本の未来は明るいなと非常にこうワクワクした次第であります。

ぜひ皆さんには、これからも勉強も遊びもしっかり頑張って、本当に学生生活これから楽しんでいただければと思います。

以上で閉会の挨拶とさせていただきたいと思います。今日は本当にお疲れ様でした。おめでとうございます。ありがとうございました。

国立大学法人浜松医科大学副学長 中村 和正 先生

優勝者 感想

僕は3年生の時に初めて、MATH やらまいかに挑戦しました。3年生の時の予選問題は、まだ当時の僕には難しく、決勝大会には出る事が出来ませんでした。4年生の時は決勝大会に出れたものの21位、去年は残り1問で惜しくも2位でした。そして、今年の決勝大会。「全問正解で1位を獲る」という目標を立てて挑みました。今年の決勝は、説明を聞いている時は難しそうだと思いましたが、いざやってみると、思っていたよりも簡単でした。解いている途中で一番早い人が11問目を解いたと聞いた時、僕はまだ9問目だったので少し焦りました。でも、12問全て解けた時はとっても嬉しかったです。決勝大会の1時間が終わった時は、1位を獲れているのか、ドキドキしました。ヒントを使わず、全問正解で20分以上時間が残っていたので、1位を獲れている自信は凄くありました。1位だと分かった時は、とっても嬉しかったです。MATH やらまいかは、毎年違う問題で、たくさんの小学生と競い合えてとっても楽しいです。今年は去年の半分ぐらいの人数しか挑戦していなかったなので、来年はもっともっと多くの小学生が挑戦して、算数に親しんで貰いたいです。

浜松市立佐藤小学校 小嶋 零音 さん

